

令和5年度第1回岡崎市森づくり協議会 会議録

開催日時 令和6年3月22日(金)(書面開催)

出席者 委員 蔵治 光一郎、山崎 真理子、荻野 昌彦、小原 淳、
(書面表決書提出者) 唐澤 萌、長坂 英樹、河野 宏枝

議案

森林整備ビジョンの進捗状況について

議事要旨

1 説明

[事務局]

令和5年度第1回岡崎市森づくり協議会では、岡崎市森林整備ビジョン(令和3年3月改訂)において定めた、18の個別施策の進捗状況について報告する。

個別施策1：森林情報の集積・一元化と活用(緊急)

目 標	指 標	2021年	2022年	2023年	2024年
	岡崎市版森林簿(仮)の整備	準備	導入	→	→
岡崎市版森林簿(仮)の管理・運用	準備	運用	→	→	

実 績	指 標	2021年	2022年	2023年 (見込)	2024年 (計画)
	岡崎市版森林簿(仮)の整備	準備	準備	準備	導入
岡崎市版森林簿(仮)の管理・運用	準備	準備	準備	運用	

準備...集積データ及び運営方針等検討

導入...環境構築及びデータ作成

運用...データ更新(地番、土地所有者、意向調査結果、伐採情報、森林経営計画等)

指標である「岡崎市版森林簿(仮)」の整備及び管理・運用のビジョンにおける目標は、2022年度(令和4年度)に「岡崎市版森林簿(仮)」を導入し、運用を開始する予定であったが、2022年度(令和4年度)の実績は準備となった。

2023年度(令和5年度)においても、実施見込みは準備としている。

2023年度(令和5年度)は、株式会社もりまちや岡崎森林組合と、森林の枝打ち状況等、「岡崎市版森林簿(仮)」に登録する管理項目について検討を行っており、2024年度(令和6年度)から導入、運用を開始する予定である。

なお、「岡崎市版森林簿（仮）」は、2024年度（令和6年度）の導入当初は、管理項目の加除修正が簡易な Excel で導入し運用する予定である。運用の中で管理項目の精査や、データの整備を進めながら、将来的には愛知県の森林クラウドや、岡崎市の統合型GISへ移行し、同システム内での地図情報と台帳情報を一元化することを検討していく。

個別施策2：放置人工林の間伐の推進（緊急）

目 標	指 標	2020年	2030年	2040年	2110年
	放置人工林を含む地番の間伐面積(ha)		0	2,179	4,358

実 績	指 標	2021年	2022年	2023年 (見込)
	放置人工林を含む地番の間伐面積(ha)		278 (278)	275 (553)

上段は年度実績、下段は累積実績

指標である「放置人工林を含む地番の間伐面積(ha)」については、「10年間で2,179ha」というビジョンの目標を、単年当たりで割ると1年当たり217haとなり、それを単年度の目標値としている。2022年度（令和4年度）の実績は275haとなり、単年の進捗率は127%になる。また、2021年度（令和3年度）以降の累積実績は553ha、累積進捗率は127%となっている。2023年度（令和5年度）は285haの実施を見込んでいる。

個別施策3：不明瞭な林地境界の解消・明確化（緊急）

目 標	指 標	2020年	2030年	2040年	2110年
	林地境界確定済み面積(ha)		3,128	5,307	7,486

実 績	指 標	2021年	2022年	2023年 (見込)
	林地境界確定済み面積(ha)		292 (3,420)	326 (3,746)

上段は年度実績、下段は累積実績

指標である「林地境界確定済み面積(ha)」については、「10年間で2,179ha」というビジョンの目標を、単年当たりで割ると1年当たり217haとなり、それを単年度の目標値としている。2022年度（令和4年度）の実績は326haとなり、単年の進捗率は150%になる。内訳は、森林境界確認・測量業務205ha、あいち森と緑づくり事業121haとなっている。また、2021年度（令和3年度）以降の累積実績は618ha（2020年度（令和2年度）時点で確定済みである3,128haを含めると3,746ha）、累積進捗率は142%となっている。2023年度

(令和5年度)は295haの実施を見込んでいる。内訳は森林境界確認・測量業務180ha、あいち森と緑づくり事業115haとなっている。

個別施策4：施業の団地化・集約化の推進（緊急）

目 標	指 標	2020年	2030年	2040年	2110年
	意向調査実施済み面積(ha)		0	1,500	完了
	団地化済み面積(ha)	3,128	5,307	7,486	-

実 績	指 標	2021年	2022年	2023年 (見込)
	意向調査実施済み面積(ha)	159 (159)	129 (288)	135
	団地化済み面積(ha)	557 (3,685)	317 (4,002)	175

上段は年度実績、下段は累積実績

1つ目の指標である「意向調査実施済み面積(ha)」については、「10年間で1,500ha」というビジョンの目標を、単年当たりで割ると1年当たり150haとなり、それを単年度の目標値としている。2022年度(令和4年度)の実績は129haとなり、単年の進捗率は86%になる。また、2021年度(令和3年度)以降の累積実績は288ha、累積進捗率は96%となっている。2023年度(令和5年度)は135haの実施を見込んでいる。

2つ目の指標である「団地化済み面積(ha)」については、「10年間で2,179ha」というビジョンの目標を、単年当たりで割ると1年当たり217haとなり、それを単年度の目標値としている。2022年度(令和4年度)の実績は317haとなり、単年の進捗率は146%になる。内訳は、集積計画策定70ha、森林経営計画策定126ha、あいち森と緑づくり事業121haとなっている。また、2021年度(令和3年度)以降の累積実績は874ha(2020年度(令和2年度)時点で団地化済みである3,128haを含めると4,002ha)、累積進捗率は201%となっている。2023年度(令和5年度)は175haの実施を見込んでいる。内訳は、集積計画策定60ha、あいち森と緑づくり事業115haとなっている。

個別施策5：路網整備の促進（緊急）

目 標	指 標	2020 年	2030 年	2040 年	2110 年	
	基幹路網（林道）の 総延長(m)		144,338	175,000	195,000	311,843
		年平均 (2020～ 2030)		年平均 (2030～ 2040)	年平均 (2040～ 2110)	年平均 (2020～ 2110)
		3,066	2,000	1,669	1,861	

実 績	指 標	2021 年	2022 年	2023 年 (見込)
	基幹路網（林道）の 総延長(m)	615 (144,953)	341 (145,294)	194

上段は年度実績、下段は累積実績

指標である「基幹路網（林道）の総延長（m）」については、「10年間で30,662m」（2020年から2030年）というビジョンの目標を、単年当たりで割ると1年当たり3,066mとなり、それを単年度の目標値としている。2022年度（令和4年度）の実績は341mとなり、単年の進捗率は11%になる。また、2021年度（令和3年度）以降の累積実績は956m（2020年度（令和2年度）時点で整備済みである144,338mを含めると145,294m）、累積進捗率は16%となっている。2023年度（令和5年度）は194mの実施を予定しており、単年当りの進捗率は6.3%の見込みである。

現在の整備状況及び整備計画

森林整備計画で開設する計画としている、古部夏山線及び仏松線の開設を進めている（表1を参照）。

総延長は、古部夏山線が4,563m、仏松線が4,000mを予定しており、令和4年度末の整備状況は古部夏山線が2,125mの47%、仏松線が2,119mの53%となっている。

2022年度（令和4年度）実績として古部夏山線が297m、仏松線が44m、2023年度（令和5年度）実績として古部夏山線が97m、仏松線が97mだが、地盤の状態や法規制による影響により、予定通りに工事が進まないことも多々ある。

近年の実態として、予算としては、減額されているわけではないが、人件費や材料費などの高騰などにより、目標指標としている林道の整備は進捗が遅れている傾向にある。また、盛土規制法により、残土処分にも苦慮しており、それによるコスト増も一因としてある。

進捗を進めるため、新工法を用いたコスト削減や補助金確保及び補助制度の拡充を国・県へ要望し、促進を図っていくことを検討している。

なお、古部夏山線、仏松線の利用区域はそれぞれ115ha、124haとしており、利用区域に

対する延長を算出すると、34.8m/ha、32.3m/ha となる。

表1 基幹路網の整備計画（開設（新設））
（岡崎市森林整備計画）

路線名	延長	利用区域面積	利用区域面積1ha当りの延長	2022年度末時点の延長	
古部夏山	4,563m	115ha	34.8m/ha	2,125m	47%
仏松	4,000m	124ha	32.3m/ha	2,119m	53%

昨年の森づくり協議会での意見とその回答

そもそも森林整備ビジョンの目標が高すぎるのではないかと、毎年目標達成率が20%前後になりかねず、目標を再設定した方がいいのではないかと、岡崎市と西三河管内の路網密度の差が大きすぎるため、対象とする道路や森林などの条件が異なるのではないかと、対象としているものを整理して報告をして欲しいという意見があった。

目標に対する進捗状況は、上述の通りであるが、来年度以降もこの数値は増えず、毎年度100～300mで推移していくと想定される。

目標と実績の乖離が非常に大きく、目標の再設定が必要であると考えている。

目標再設定の時期としては、短期目標を設定している2030年を検討しており、今後も毎年度の実績の集計及び要因の調査を進め、適切な目標を検討していきたい。

次に路網密度算出における対象とする道路や森林などの条件について回答する。

目標値の設定経緯は、岡崎市森林整備計画で定めている「木材の生産機能の維持増進を図るための森林施策を推進すべき森林」14,775haに対して、路網密度20m/haを2110年に達成するために必要な延長を2020年時点の延長に加えた数値としている。目標路網密度を20m/haとしているのは、林野庁が示す「地形傾斜・作業システムに対応する路網整備水準の目安」(表2を参照)で、林道は最大で20m/ha、つまり20m/haあれば理想としているためである。

表2 地形傾斜・作業システムに対応する路網整備水準の目安
(2019年度森林総合監理士(フォレスター)基本テキスト(林野庁))

地形傾斜・作業システムに対応する路網整備水準の目安 (単位：m/ha)

区分	作業システム	基幹路網			細部路網	路網密度
		林道	林業専用道	小計	森林作業道	
緩傾斜地 (0～15°)	車両系	15～20	20～30	35～50	65～200	100～250
中傾斜地 (15～30°)	車両系	15～20	10～20	25～40	50～160	75～200
	架線系				0～35	25～75
急傾斜地 (30～35°)	車両系	15～20	0～5	15～25	45～125	60～150
	架線系				0～25	15～50
急峻地 (35°～)	架線系	5～15	-	5～15	-	5～15

次に国・西三河・岡崎市の路網状況であるが（表3を参照）、2021年度（令和3年度）の国内における林内路網密度は24.1m/haだが、これには公道や農道、作業道も含まれる。また、国内における林道の総延長が20万km、作業道の総延長が21万kmと林道と作業道はほぼ同じ割合とのデータが有ることから、現状の国内における林道の路網密度は、少なくとも12m/ha以下となると考えられる（対象の森林は全森林（他省庁所管分を除く））。また、西三河管内においては、作業道等を含めた路網密度は21.7m/haだが、林道だけに限ると6.1m/haとなっている（対象の森林は地域森林計画対象民有林（以下、5条森林））。

岡崎市の現時点の数値及び目標は林道に限ったもので（作業道は民間で管理しているものが多く把握できていない）、2020年時点における路網密度は9.7m/ha（対象の森林は「木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林」）となる。

岡崎市の算出条件を愛知県に合わせ、対象森林を5条森林、対象路網を林道とすると、岡崎市内の5条森林面積22,628haに対し、林道延長が144,338m（2020年度時点）となるため、6.4m/haとなる。（国に条件を合わせるのは、作業道、公道等の延長が不明のため算出できない。）

国内における数値は対象を全森林（他省庁所管分除く）としており、また、路網として公道や農道まで含めており、条件が異なるため比較が難しいが、西三河管内における、林道の数値とは大きなズレはないと思われる。

表3 国・西三河・岡崎市路網状況

（2023年度森林総合監理士（フォレスター）基本テキスト（林野庁）
2021年度愛知県林業統計書）

2021年 国内路網密度 （対象森林は他省庁所管分を除いた全森林）	24.1m/ha （公道・農道・作業道含む）
2021年 国内林道総延長	20万km
2021年 国内作業道総延長	21万km
2021年 西三河管内路網密度 （対象森林は森林法における5条森林）	21.7m/ha （作業道等含む） 6.1m/ha （林道のみ）
2020年 岡崎市路網密度 （対象森林は「木材の生産機能の維持増進を図るための森林施業を推進すべき森林」）	9.7m/ha （林道のみ）
2020年 岡崎市路網密度 （対象森林は森林法における5条森林）	6.4m/ha （林道のみ）

個別施策6：森林施業の安全性を確保した高性能林業機械等の導入促進

目 標	指 標	2020年	2030年	2040年	2110年
	高性能林業機械保有台数		8	12	12

実 績	指 標	2021年	2022年	2023年 (見込)
	高性能林業機械保有台数		1 (9)	0 (9)

上段は年度実績、下段は累積実績

指標である「高性能林業機械保有台数」については、「10年間で4台増」のため、2年ないし3年で1台導入する目標となっている。2020年時点における保有台数は8台であり、2021年度（令和3年度）に1台導入し、2023年度末は9台の保有台数となっている。

また、公益財団法人愛知県林業振興基金が高性能林業機械利活用事業として、基金が保有する高性能林業機械を県内の認定事業主への貸出しを実施しており、岡崎市内の認定事業主に対して、2022年度（令和4年度）にハーベスタ1台の貸出し実績がある。

個別施策7：木材製品の利用促進・利用先の拡大

目 標	指 標	2021年	2022年	2023年	2024年	2025年
	木材利用の目標設定	準備	➡	➡	設定	-
	トレーサビリティ 導入支援	-	運用	➡	➡	➡
	サプライチェーン 構築	-	運用	➡	➡	➡
	研究会等の実施回数	準備	6	12	18	24
	地域商社設立	設立	➡	➡	➡	➡

実 績	指 標	2021年	2022年	2023年 (見込)
	木材利用の目標設定	準備	➡	➡
	トレーサビリティ 導入支援	-	運用	➡
	サプライチェーン 構築	-	運用	➡
	研究会等の実施回数	準備	7	9
	地域商社設立	設立	➡	➡

1つ目の指標である「木材利用の目標設定」について、本指標において設定する目標は、「素材供給量」、「製品利用量」、「戸建住宅利用量」、「非住宅での木材利用量」、「矢作川流域圏等の近隣地域の建築物の木造・木質・木装化における市産材の利用」としてお

り、2022年度（令和4年度）の実績及び、2023年度（令和5年度）の実績見込みも準備としている。

昨年の森づくり協議会で、目標設定に向けて本市の木材利用の実態について提示して欲しいという意見があったので、本市が把握している数値を提示する。

まず「素材供給量」は、国有林を除き、年間7,700 m³の素材生産（供給）がされており、そのうち、5,100 m³が製材用として供給されている。また、市内林業者へのヒアリング結果では年間6,500 m³程度の素材生産（供給）をしているとのことだった（表4を参照）。

次に「製品利用量」は、市内製材業者へのヒアリング結果では、市産材として利用したのは年間1,070 m³（丸太換算）程度だった。製材後の製材量については、歩留まり40%と仮定した場合428 m³、50%と仮定した場合535 m³を想定製材量としている（表4を参照）。

表4 岡崎市の樹種別・用途別素材生産量及び市内林業事業者・市内製材業者へのヒアリング

岡崎市の樹種別素材生産量（2021年度）

単位：m³

	総数	樹種別					
		針葉樹					広葉樹
		スギ	ヒノキ	マツ	その他	計	
総数	12,700	4,800	5,200	0	1,900	11,900	800
国有林	5,000	2,300	300	-	1,900	4,500	500
公用+私有計	7,700	2,500	4,900	0	0	7,400	300
公用林	500	400	100	-	-	500	-
私有林	7,200	2,100	4,800	-	0	6,900	300

2021年度の素材供給量（愛知県林業統計書より）

岡崎市の用途別素材生産量（2021年度）

単位：m³

	総数	用途別					
		製材用		パルプ・チップ用		その他	
		総数	内針葉樹	総数	内針葉樹	総数	内針葉樹
総数	12,700	6,300	6,300	2,600	2,600	3,800	3,000
国有林	5,000	1,200	1,200	700	700	3,100	2,600
公用+私有計	7,700	5,100	5,100	1,900	1,900	700	400
公用林	500	400	400	-	-	-	-
私有林	7,200	4,700	4,700	1,900	1,900	700	400

2021年度の素材供給量（愛知県林業統計書より）

※端数四捨五入のため、内訳と計が合致しない。

※国有林は素材生産及び搬出を国の事業として実施するため、以降の資料には上記の数値は反映されない。

※用途別も積算単位は丸太（加工時等の歩留まりは反映されていない）。

※国有林は国発注のため、市内林業事業者は参入していないとのこと（ヒアリングより）。

県森連が実施。安価なため入札参加せず。以前は飛驒の業者がやってたとのこと。

市内林業事業者へのヒアリング 市内製材業者へのヒアリング
2023.1実施 2023.1実施

事業主体	岡崎市産素材年間生産量 (m ³)	事業主体	素材年間利用量 (岡崎市産以外含む) (m ³)	岡崎市産素材利用率	岡崎市産素材年間利用量 (m ³)	【試算】歩留まり40%の場合の製材量 (m ³)	【試算】歩留まり50%の場合の製材量 (m ³)
A	4,000	E	800	90%	720	288	360
B	1,000	F	500	70%	350	140	175
C	1,000	合計	1,300	82%	1,070	428	535
D	500						
合計	6,500						

※素材消費量及び市産材消費量の積算単位は丸太（加工時等の歩留まりは反映されていない）。
※市内製材業者のうち、ヒアリングに回答があり主に市産材を利用している業者のみ。他は消費量は限られるため割愛。

※市内林業事業者、市内製材業者へのヒアリングは、別事業で委託業者が実施。

次に、「戸建て住宅利用量」は、固定資産税概要調書より木造専用住宅の年間で建築された床面積の合計は 149,083 m²（平米）なことから、想定製材（木材）利用量は 23,495 m³程度としている（積算根拠等は表 5 を参照）。

次に、「非住宅での木材利用量」は、木造軸組工法住宅のように床面積 1 m²当たりの利用量の根拠がないため、固定資産税概要調書の構造別の棟数と床面積のみの提示となる（表 5 を参照）。

最後に、本市で実施している市産材を利用した戸建て住宅への補助金で把握している木材利用量については、主要構造材で年間約 137 m³、内装材で年間約 245 m²（平米）の木材が利用されている（表 5 を参照）。

表 5 岡崎市内新築建築物状況（住宅等、非住宅）及び 2022 年度岡崎市市産材住宅補助利用状況

2 戸建て住宅利用量、非住宅での木材利用量

岡崎市内新築建築物状況

住宅等					非住宅				
2022年築（固定資産税概要調書より）					2022年築（固定資産税概要調書より）				
構造	用途	棟数	床面積 (m ²)	想定製材（木材）利用量 (m ³)	構造	用途	棟数	床面積 (m ²)	想定製材（木材）利用量 (m ³)
木造	専用住宅	1,366	149,083	23,495	木造		71	7,514	
木造	共同住宅	74	22,340		RC造		3	5,475	
木造	併用住宅	15	2,247		S造		68	53,130	
RC造	住宅・アパート	10	13,706		LGS造		79	4,716	
S造	住宅・アパート	11	5,638		CB造		2	33	
LGS造	住宅・アパート	253	44,277		その他		1	38	
合計		1,729	237,291	23,495	合計		224	70,906	

※非木造は共同住宅込み。

※非課税建物（公共建築物、寺社等）除く。

※想定製材（木材）利用量は、床面積 1 m²当たり 0.20 m³（財団法人 日本住宅・木材技術センター（2002）木造軸組工法住宅の木材使用量より）。

※想定製材（木材）利用量は、上記床面積から 2×4 工法（19.1%）、プレハブ造（2.1%）を除いた 78.8% で積算（木造住宅。林野庁 2022 年度、森林・林業白書第 4 章第 2 節より）。

※非課税建物（公共建築物、寺社等）除く。

※事務所・店舗は木造 44 棟 5,527 m²、非木造で 37 棟 32,031 m²。

2022年度岡崎市市産材住宅補助利用状況

件数	主要構造材 件数	内装材件数	施行業者数	主要構造材 利用量 (m ³)	内装材利用量 (平方メートル)
13	9	4	4	137.0893	244.8793

次に、2つ目の指標の「トレーサビリティ導入支援」、3つ目の指標の「サプライチェーン構築」については、5つ目の指標である地域商社「株式会社もりまち」が製品開発、販売実施した商品のサプライチェーンは構築されており、トレーサビリティについても「株式会社もりまち」が把握しているため2022年度（令和4年度）の実績は運用としている。「株式会社もりまち」では、新たな販路として構造材を含めた建材の販売も検討しており、第三者認証も含めた新たなトレーサビリティやサプライチェーンの構築の検討も進める。また、岡崎市においても愛知県の「あいちのICT林業活性化構想（スマート林業）」も考慮しつつ、「株式会社もりまち」の支援を引き続き行う。

次に4つ目の指標である「研究会等の実施回数」については、2022年度（令和4年度）は「市産材活用のための講習会」を全3回開催し、「SDGsセミナー」を全4回開催した。

「市産材活用のための講習会」は、木材・木質材料の種類と性質や建築木材を活用した建築事例などを通じて、木材利用の意義を学ぶことを目的とし、市内を中心とした建築・設計業関係者や行政職員などを対象とし開催した。

「SDGsセミナー」は、豊富な森林資源を、有効にビジネスに活用していくきっかけとなることを目的とし、市内の企業を主な対象として開催した。

2023年度（令和5年度）においては、2022年度（令和4年度）に行った講座を踏まえ、「市産材活用のための講習会」・「SDGsセミナー」を発展させた講座を開催した。

内訳は、「SDGsセミナー」を発展させた講座を全3回、「市産材活用のための講習会」を発展させた講座として、「おかざき木づかい塾」を全5回、「木材強度調査の曲げ試験公開」を全1回の計9回を開催した。

「おかざき木づかい塾」は、木材・地域材利用の意義、市内の森林、林業、製材業の現状や木材の利活用方法について学び、「木づかい」を実践する方を増やすことを目的とし、市内を中心とした建築、設計業、木材関係業、行政職等を対象とした。

「木材強度調査の曲げ試験公開」は、岡崎市有林の立木を使い、立木から製材後の木材になる過程において、段階ごとに強度調査を行い、岡崎市内で産出される木材の強度特性の把握、立木状態での強度試算を行えるようにすることを目的とした調査を実施した。その内、製材した木材の曲げ試験を、岡崎市内で産出される木材の強度について学ぶことを目的とし、市内を中心とした建築、設計業、木材関係業、行政職等を対象として、公開実施した。

次に5つ目の指標「地域商社設立」については、2021年度（令和3年度）に地域商社「株式会社もりまち」が設立された。2022年2月の設立から2023年12月末時点までの市産材の利用の実績は、丸太換算で合計約50m³となる（製材後使用量約22.36m³から、

歩留まり 45%で逆算)。主な製品としては、鋼板梱包用資材、古着回収 BOX、ベンチ等になる。今後も新たな製品開発、販路拡大により市産材の利用推進を図る。

最後に、個別施策内に記載は無いが、昨年度の森づくり協議会で報告した、公共施設における木材利用の促進を図るための「岡崎市市産材調達管理基金」については、2022年10月1日付で原資金を2,000万円とし設置した。

運用を開始した2023年度(令和5年度)分の調達状況については、消防団車庫警備室で13.9013 m³、平地荘放課後児童クラブで13.7354 m³、矢作北中学校倉庫で3.9060 m³、大樹寺小学校で5.4294 m³、甲山中学校で9.4335 m³、岡崎小学校で9.8529 m³の計56.2585 m³の市産材を調達する見込みであり、2024年度(令和6年度)分としては、大樹寺住宅B棟で25.4989 m³、大樹寺住宅放課後児童クラブで0.2852 m³、矢作中学校で4.4082 m³、美合小学校で2.1252 m³、根石小学校で10.5276 m³、地域文化広場で4.0250 m³、六名公園便所で9.00 m³の計55.8701 m³の市産材を調達する見込みである。

なお、原資金については、2024年度(令和6年度)以降も継続して市産材の発注をする見込みであり、工事請負業者に市産材の引渡し完了していない場合、基金で新たに次年度分の市産材を発注するに当たり、運用資金が不足する可能性があることから、2023年12月に2,000万円の積み増しを行い、計4,000万円とした。今後も予定される公共建築物の建替え等の情報収集を行い、原資金についても必要に応じて積み増し等を行い、公共建築物における市産材の利用促進を図る。

個別施策8：山地災害への備え

目 標	指 標	2020年	2030年	2040年	2110年
	締結した協定数(件)	0	2	6	-

森林に関する災害対策として、公民連携等により連携等の関係体制を構築した数

実 績	指 標	2021年	2022年	2023年 (見込)
	締結した協定数(件)	0 (0)	1 (1)	0

上段は年度実績、下段は累積実績

指標としている「締結した協定数」は、山地災害時の対応強化として、公民連携等による対応体制の構築を図るものであり、2030年までに2件、2040年までに6件の協定締結を目標としている。

2022年度(令和4年度)の実績として、1件の協定締結があり、2023年度(令和5年度)は0件の見込みである。2020年度(令和2年度)以降の累積実績は1件となっている。

2022年度（令和4年度）に締結した協定は、岡崎市牧平町の株式会社高木製作所と締結したもので、協定の内容は災害時等に施設を協力避難所として使用するものとなっている。

その他、森林の持つ土砂災害防止・土壌保全機能を十分に発揮させるため、愛知県に対し、砂防事業の早期の整備促進を要望している。

個別施策9：緑のダム機能の向上

目 標	指 標	2020年	2030年	2040年	2110年
	モデル林の選定	➡		-	-
	調査方法の検討	➡		-	-
	施設の設置	➡		-	-

水源涵養や雨水流出抑制などの水循環に有益な機能（緑のダム機能）の向上を図るため、効果的な整備方法を検討するためのモデル林の選定・調査方法の検討・実験施設の設置を2040年までの目標としている。

有益な実験結果を得るためのモデル林の選定に向け、個別施策1の岡崎市版森林簿(仮)の導入・運用を進めている。

個別施策10：森林の適切な管理・保全

目 標	指 標	2020年	2030年	2040年	2110年
	林地開発許可件数と面積	-	-	-	-
	市有林の整備実績面積(ha)	-	-	-	-

実 績	指 標	2021年	2022年	2023年 (見込)
	林地開発許可件数と面積	5	5	6
		26.5	26.5	31.1
市有林の整備実績面積(ha)	3.6	6.3	1.5	

1つ目の指標である「林地開発許可件数と面積」については、2020年度以前に許可し、継続して許可期間のあるものが5件、26.5ha、2022年度（令和4年度）の実績は新規許可0件となっている。2023年度（令和5年度）は新規1件、1.99ha、変更（面積拡大）が1件、2.60haを見込んでいる。

2つ目の指標の「市有林の整備実績面積」については、2022年度（令和4年度）は保育間伐6.3haを実施した。2023年度（令和5年度）は保育間伐1.5haの実施を見込んでいる。

個別施策 11：野生動植物の保護

目 標	指 標	2020 年	2030 年	2040 年	2110 年
	岡崎市版レッドデータリスト の改訂		-	第 4 版	-

2022 年度（令和 4 年度）は、野生生物の生息・生育環境の保全活動として、市内の湿地において、市民活動団体と協働し、保全作業を計 23 回、参加者計 362 人で実施した。

2023 年度（令和 5 年度）は、自然環境保全条例に基づく自然環境保護区として小呂湿地を令和 5 年 4 月 1 日に指定した。

個別施策 12：多様な森林づくりの推進

目 標	指 標	2020 年	2030 年	2040 年	2110 年
	人工林面積(ha)	12,147	➡	➡	40%
	針広混交林面積(ha)	-	➡	➡	50%
	天然林面積(ha)	11,944	➡	➡	
	施設の設置	-	➡	➡	10%

2022 年度（令和 4 年度）は、おかげ自然体験の森指定管理者による自主的な森林整備作業及び森林整備イベントのほか、市民活動団体（きこりの会・炭焼きの会等）やボランティアの協力による森林整備も実施した。

また、岡崎漆をブランド化することにより、今後の国産漆への需要を満たすとともに、樹木育成において耕作放棄地や山林の有効活用を図るため、漆の植栽を 2.5ha 実施した。

2023 年度（令和 5 年度）も、2022 年度（令和 4 年度）と同様、岡崎自然体験の森指定管理者を始めとした各種団体による森林整備等を実施するとともに、漆の植栽を 2 ha 実施見込である。

個別施策 13：森林被害対策の推進

目 標	指 標	2020 年	2021 年	2022 年	2023 年
	ニホンジカ捕獲数（体）	-	1,000	1,000	1,500
	松くい虫被害と防除実績	-	-	-	-
	カシノナガキクイムシ 被害と防除実績	-	-	-	-

ニホンジカ捕獲数の目標数値について、2023 年以降は、第二種特定鳥獣管理計画岡崎市実施計画と連携し、指標数値を決定する。

実績	指標	2021年	2022年	2023年 (見込)
	ニホンジカ捕獲数(体)	899	872	1,000
	松くい虫被害と防除実績	0	0	0
	カシノナガキクイムシ 被害と防除実績	0	0	0

指標である「ニホンジカの捕獲数」については、2022年度は年間1,000体、2023年度以降は環境部局が策定している「第二種特定鳥獣管理計画岡崎市実施計画」の数値を目標数値とすることとしており、2023年度は年間1,500体を目標値としている。2022年度の実績は899体となり、単年の進捗率は90%となっている。また、2021年度以降の累積実績は1,771体、累積進捗率は89%となっている。2023年度は1,000体の捕獲を見込んでいる。

「松くい虫被害と防除実績」、「カシノナガキクイムシ被害と防除実績」については、2022年度(令和4年度)の被害及び防除実績はなく、2023年度(令和5年度)においても被害及び防除実績はない見込みである。

個別施策14：森林環境教育の推進

目標	指標	2020年	2030年	2040年	2110年
	自然体験・学習プログラム 参加者(人)	-	10,000	-	-

2022年度(令和4年度)は、自然体験・学習プログラム参加者は5,330人であった。その他、啓発活動として、山の日に中央図書館、木の日にイオンモール岡崎にて、森林・SDGs・木材利用等についての紹介パネルや啓発冊子等を展示・配布を行った。

2023年度(令和5年度)は、水とみどりの森の駅、自然環境保全条例に基づく自然ふれあい地区、北山湿地、小呂湿地等で各種自然体験・学習プログラムを実施し、啓発活動として、山の日に中央図書館、木の日に本庁東庁舎及びイオンモール岡崎にて、森林・SDGs・木材利用等についての紹介パネルや啓発冊子等を展示・配布を行った。

個別施策15：市民・企業等の森林づくり・森林空間の活用の推進

目標	指標	2020年	2030年	2040年	2110年
	連携した数(件)	-	5	10	-

実績	指標	2021年	2022年	2023年 (見込)
	連携した数(件)	0 (0)	2 (2)	0 (2)

上段は年度実績、下段は累積実績

2022年度（令和4年度）に三菱自動車工業㈱及び、西日本三菱自動車販売㈱と森林保全活動連携協定を締結した。

協定の趣旨・目的については、カーボンニュートラル社会の実現に向けた、森林の公益的機能の向上のため森林保全活動を連携・協力して実施することである。

実施する森林保全活動の内容は、(1)植林、下草刈り、間伐、枝打ち、木材の搬出等の森林保全活動、(2)市内の森林サービス産業を含む、中山間地域の活性化に資する活動、(3)実施した森林保全活動の発表及び啓発活動、(4)その他、連携協定の目的の達成に資する事業活動である。

活動場所については、岡崎市が細光町に所有する市有林となり、面積は登記簿上で50.7ha、当該活動場所を、「岡崎アウトランダーの森」と命名した。

また、当該活動場所については、カーボンクレジット（Jクレジット制度）の登録を行うため、手続きを行っており、2025年度（令和7年度）の発行を目標としている。本協定に基づく活動により得られたカーボンクレジットについては、活動に応じた分を三菱自動車工業㈱及び、西日本三菱自動車販売㈱に無償で付与することとしている。

最後に、今後の主な活動予定については、2023年度（令和5年度）は、植林0.5ha、2024年度（令和6年度）にも実施する植林0.5ha分も含め、植林場所の獣害ネットの設置1.0ha、間伐0.5haを実施する。2024年度（令和6年度）は、植林0.5ha、下刈り1.0ha、調査測量・整備計画策定10ha、間伐1.0ha、作業路開設80mを予定している。2025年度（令和7年度）については、下刈り1.0ha、間伐1.0ha、作業路開設160mを予定している。

今後は本協定に基づく活動を進めるとともに、新たに市有林を活用した森林整備により、社会貢献活動やSDGsへの取組みを行いたい企業を募集し、更なる森林整備を進める。

個別施策 16：森林づくりに関する情報の整備と発信

	指 標	2021年	2022年	2030年
目標	森林所有者等向けHP作成	運用	➡	運用方法検証・見直し
	森林所有者変更時の案内文書 発送	運用	➡	運用方法検証・見直し
	市民・企業向けHP・SNS の作成	準備	運用	運用方法検証・見直し

「水とみどりの森の駅HP」において、各イベント情報を公開している。また、開催結果をブログ等で発信するなどの情報発信を行っている。

また、2023年3月に三菱自動車工業株式会社・西日本三菱自動車販売株式会社と森林保全活動連携協定を締結し、企業と共に市有林での森林整備への取組みを始めた。この取組みはHPでも公開しており、市有林を活用した森林整備により、社会貢献活動やSDGsへの取組みを行いたい企業を募集している。また、引き続き木材利用に関するセミナーや担い手育成の場となるきこり塾などのイベント情報などを発信し、市民や企業へ森づくりへの啓発などを行う。

個別施策 17：所有森林を活用する意識の向上

目 標	指 標	2020 年	2030 年	2040 年	2110 年
	森林活用意識の高い 森林所有者割合	-	65%	80%	-

2022 年度（令和 4 年度）は、森林経営管理制度により、林地の境界確認を実施した森林所有者へ所有している森林の今後の管理についてアンケートを実施した。

2023 年度（令和 5 年度）も同様に、林地の境界確認を実施した森林所有者へ所有している森林の今後の管理についてアンケートを実施した。

個別施策 18：林業の担い手の育成・確保

目 標	指 標	2020 年	2030 年	2040 年	2110 年
	林業経営体の総就業者数（人）	-	5 増	-	-

2040 年の目標数値は 2030 年時点で検討する。

実 績	指 標	2021 年	2022 年	2023 年 （見込）
	林業経営体の総就業者数（人）	72	75	74

令和 4 年度は、UIJ ターン支援制度についての情報を企業及び求職者・テレワーク希望者へ提供（市HP掲載・各所へのチラシ配付）した。

また、農林業体験イベントや講演会等を計 6 回実施した他、半林半 X といった林業と他の仕事との組み合わせた働き方の支援を行うため、副業人材調査として、実際に半林半 X を実践している方へのヒアリングを行った。

令和 5 年度においても、引き続き、UIJ ターン支援制度についての情報提供、農林業体験イベント等、副業人材調査を実施している。

2 意見・質問

個別施策1：森林情報の集積・一元化と活用（緊急）

[蔵治会長] 質問

森林の枝打ち状況等、「岡崎市版森林簿（仮）」に登録する管理項目について検討を行っており、とあるが、管理項目以外にどのような項目（個人情報を含む）が岡崎市林地台帳（森林簿）に登録されるのか、また、林地台帳を閲覧できる人をどのように限定するのか説明していただきたい。

[事務局] 回答

「岡崎市版森林簿（仮）」は、所在地番毎で登録管理し、所在地番に紐づく土地所有者の氏名・住所や面積等を登録する予定である。その他、森林簿等の他のデータベースから所在地番をキーとし、「岡崎市版森林簿（仮）」に項目を追加することも可能である。運用していく中で必要な情報を精査し、所在地番データに紐づけ、「岡崎市版森林簿（仮）」に登録管理する項目は適宜加除修正する予定である。また、閲覧可能者についても、個人情報が含まれるため、閲覧できる項目も含め検討していく。

[荻野委員]

岡崎市版森林簿（仮）については「林業クラブ」を中心とした用材確保のための優良林分把握もその目的の一つと捉えている。近年クラブ員の高齢化に伴い、代替わりの時期であるとともに時代による市場及び市況変化が所有者の意識を更に低下させている。(株)もりまちの業務として展開されることを期待したいところであり、所有者の意識高揚にも繋がると信じているので、今後の施策に早急に反映願いたい。

個別施策5：路網整備の促進（緊急）

[蔵治会長] 意見

路網密度という言葉の定義が異なるために混乱を引き起こしていると思われる。岡崎市の目標数値は林道密度であり、表2では理想として林道密度 20m/ha となっていることは確認できたので、理想と現実とは程遠いということが理解できれば十分である。国や西三河との比較は、言葉の定義が異なっているため、比較する意味がないので、削除した方がよい。

[荻野委員] 意見

昨年の協議会での意見に対する回答として毎年の目標達成率が20%前後で目標の再設定が必要とあるが、あくまで当初掲げた理想を目標値としたわけであるから実績がこのような数値であったとしても法律改正やコストが高騰した現実を知る上ではこのままの方がむしろ理解が得やすいのではないかと感じる。基幹路網としての林道は近年の豪雨災害発生後の県道通行止めの迂回路として役割があり、その必要性を訴える地域住民からの声も少なくないと感じる。市全体としてこの達成率をどう考えるのか、むしろその方向で訴えるべきではないか。報告書の格好付けのための目標値の引下げは反対である。

個別施策7：木材製品の利用促進・利用先の拡大

[蔵治会長] 質問

実施したイベント等について、回数だけでなく開催日、場所、イベントのタイトル、参加人数等を表で示してください。

[事務局] 回答

実施したイベントの開催日等は以下の通り。

2022 年度

	イベント名	開催日程	開催場所	参加人数
1	第1回SDGsセミナー	2022.7.28	株式会社高木製作所研修所	15名
2	第2回SDGsセミナー	2022.9.27	旧大雨川小学校、天使の森	23名
3	第3回SDGsセミナー	2022.11.24	株式会社高木製作所研修所	25名
4	第4回SDGsセミナー	2023.1.25	くらしの杜クリニック、岡崎信用金庫城下町支店	30名
5	第1回岡崎市産木材の活用を促進のための学習会	2022.9.22	西三河総合庁舎	28名
6	第2回岡崎市産木材の活用を促進のための学習会	2022.10.5	西三河総合庁舎	24名
7	第3回岡崎市産木材の活用を促進のための学習会	2022.10.19	西三河総合庁舎	26名

2023 年度

	イベント名	開催日程	開催場所	参加人数
1	第1回SDGsセミナー	2023.9.22	岡崎市役所	8名
2	第2回SDGsセミナー	2023.9.29	岡崎市役所	6名
3	第3回SDGsセミナー	2024.1.31	岡崎市役所、株式会社鈴六	8名
4	第1回おかざき木づくり塾 「なぜ今、おかざきの木を使うのか！」	2023.8.17	葵丘	21名
5	第2回おかざき木づくり塾 「おかざきの森林資源を知る」	2023.9.21	額田センター・こもれびかん、千万町町内森林	23名
6	第3回おかざき木づくり塾 「おかざきの木なりわいを知る」	2023.10.19	農産加工施設（東河原町）旧大雨川小学校	26名

7	第4回おかざき木づかい塾 「おかざきらしい木のライフスタイルを創る」	2023.11.16	岡崎製材(株)、岡崎市役所	23名
8	第5回おかざき木づかい塾 「つなぐことから始まる木づかいネットワーク」	2023.12.1	岡崎学区市民ホーム、小原木材(株)	23名
9	木材の特性を知る学習会	2024.2.5	名古屋大学東山キャンパス	31名

[山崎副会長] 質問

トレーサビリティについて、どのような施策がなされているのでしょうか？もりまちがすべてを押しえられていないと思います。岡崎市で生産される丸太の追跡ができるシステムの検討を始めるべきかと思います。

炭素貯蔵、木材利用による炭素排出のモニタリングもすると良いと思います。

[事務局] 回答

トレーサビリティは各事業者が各々の方法で運用している実情である。追跡システムやモニタリングについても、手法を検討していきたい。

[荻野委員] 意見

「岡崎市市産材調達管理基金」の2000万円から4000万円への積み増しに関しては大いに評価する。

個別施策17：所有森林を活用する意識の向上

[蔵治会長] 質問

2022、23年度に、森林経営管理制度により林地の境界確認を実施した森林所有者へ所有している森林の今後の管理についてアンケートを実施したとのことだが、アンケートの結果について説明してください。

[事務局] 回答

アンケート結果は以下の通り。

2022年度

対象地域：切山町、鍛埜町

回答者数：54名

今後の経営・管理方針（回答は重複含む）

- 1.自分で経営や管理をしたい 10
- 2.自分で委託先を探し、経営や管理を委託したい 1
- 3.既に他者に委託しており、引き続き継続して委託したい 1
- 4.市に経営や管理を委ねることについて検討してみたい 35
- 5.その他（処分の検討、共有林のため一人では判断できない等） 9

2023 年度

対象地域：中金町、外山町、一色町

回答者数：38 名

今後の経営・管理方針（回答は重複含む）

- 1.自分で経営や管理をしたい 7
- 2.自分で委託先を探し、経営や管理を委託したい 0
- 3.既に他者に委託しており、引き続き継続して委託したい 2
- 4.市に経営や管理を委ねることについて検討してみたい 26
- 5.その他（処分の検討、共有林のため一人では判断できない等） 3

個別施策 18：林業の担い手の育成・確保

[蔵治会長] 質問

農林業体験イベントや講演会等を計 6 回実施したとのことだが、いつ、どのようなイベントを行ったのか表で示してください。また、副業人材調査として、実際に半林半 X を実践している方へのヒアリングを行ったとのことだが、ヒアリングの結果について開示してください。

[事務局] 回答

農業体験イベント等として実施したイベントの開催日等は以下の通り。

	イベント名	開催日程	開催場所	参加人数
1	オクオカ農家のリアルを知る～自然薯栽培と講和～	2022.11.26	岡崎市宮崎町石原地区内	10 名
2	岡崎の森に触れよう！楽しもう！	2022.11.23	わんパーク	23 名
3	里山の恵みの活かし方を学ぶ！～秋の番茶づくり～	2022.12.10	宮ザキ園	6 名
4	企業をモリアゲる岡崎の森活用法～長野麻子氏講演会～	2022.12.12	図書館交流プラザリブラ	105 名
5	オクオカ林業体験会	2022.12.17	岡崎市千万町町地内	10 名
6	第一回岡崎の森を考えようシンポジウム	2023.2.6	図書館交流プラザリブラ	124 名

副業人材調査は、地理的な不利地が多く従来の単一な働き方では十分な所得を確保することが難しい中山間地域において、地域全体の所得向上のために従来の農林業者が加工・販売なども行う 6 次産業化の取組みを加速化させるとともに、中山間地域が有する地域資源を発掘し、他分野と組み合わせることで新たな事業・価値の創出や所得向上を図ることを目的として、農林業とほかの職業を複数行い、生業として成り立たせている人材を探しヒアリングを実施した。

ヒアリングは 3 社の法人の事業代表者及び、そこで働く人材の他、平日は会社員との

本業の務める傍ら、休日に間伐ボランティア団体に所属し、森林整備を行う団体メンバーに実施した。

ヒアリングを実施した法人は宮ザキ園(農業×) (株)しらい(林業×)(一社) 奏林舎(林業×) また、間伐ボランティア団体は水守森支援隊。

ヒアリングをして得られた調査結果は以下の通り。

1. 以下の3つの働き方の可能性。
 - 会社員の収入を主たる収入としながら週末や空き時間に従事する。
 - 林業と他業務の2つの業務を請負う。
 - 年金収入を得ながらパートとして従事する。
2. 平均年収を半林半Xで得るのは難しいと感じている。
3. 現金収入に頼らない価値観の醸成が必要。
4. ボランティアという関わり方の門戸を広げる。
5. 社会的意義のある職業だという周知をしていく。

その他

[唐澤委員] 意見

進捗状況については、目標数値の高すぎる路網整備の促進以外は順調に進まれていると思います。この様に事業が進んでいることが市民の目にも分かる場があると良いと思います。どれも山の中で行われていることなので、市民が知る由もの無いのはもったいないと感じます。HPのどこかに一般の方にも分かる資料や情報を載せるなど、税の使われ方として知られるべきだと思います。特に今後は森林環境税も導入されることで関心は高まると思います。